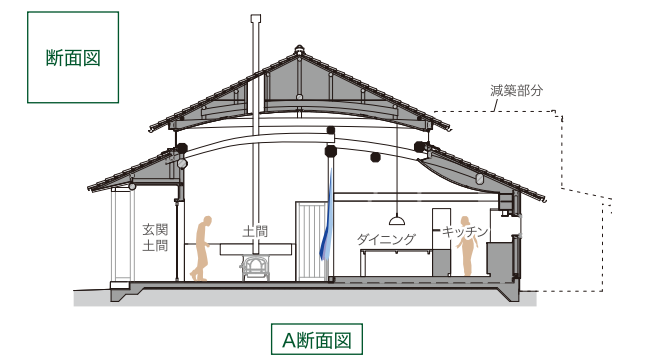
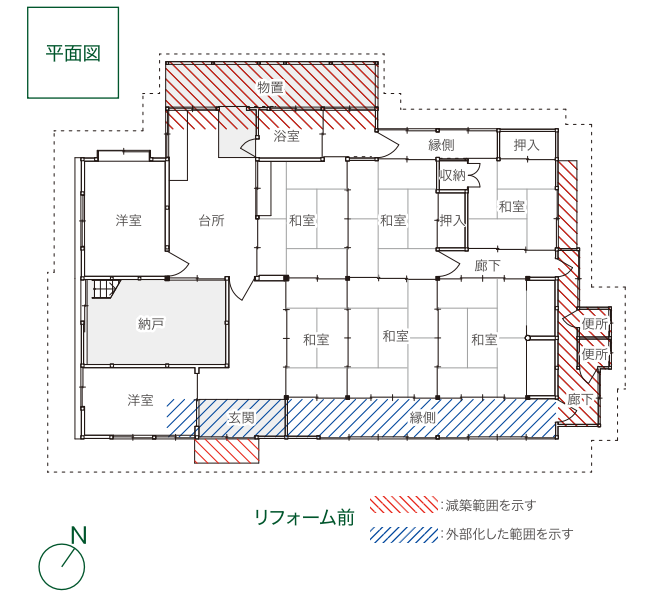


設計	一級建築士事務所 岸本泰三建築設計室
施工	有限会社 クラフトハウス
竣工日	2023年9月27日
◎建物概要	
建設地	岡山県美作市
敷地面積	702.48㎡
延床面積	156.53㎡
構造・規模	木造平屋建
◎設備面の特記	
厨房機器	ガスコンロ
給湯機器	エコジョーズ
冷暖房機器	エアコン・薪ストーブ



設計コンセプト

岡山県北部の古民家の再生計画である。施主は両親が亡くなられて長く空き家になっていた家に、定年を機にUターンを決めた。近い将来、兄妹も集まって田舎暮らしを楽しむことが与条件である。建築当初は茅葺屋根であったこの民家は、家族構成に合わせて、間取りや屋根の改修など、住みながら手を加えられている。

今回の再生計画では、構造的な補強と、主に昭和50年代に増築・改修された部分の減築を行い、住宅の架構をシンプルな長方形に戻した。当初材の栗や樺の柱、大きく曲がった梁、黒く煤けた土壁は、建築当初からこの場所で生活の中にあっただものである。生活様式の変遷を経て再び生活空間の場に現われた。

現代の田舎暮らしで魅力的なスペースになる土間空間を、住まいの内部と外部の両方に広く計画した。玄関は曖昧で、外部の土間から内部土間の薪ストーブのある場所が、ご近所とのコミュニケーションの場となるはずである。その設えの一つとして藍染作家に協力いただいた暖簾が、土間とダイニングを緩やかに仕切っている。

この計画は、施主ご夫婦と兄妹が再び集まって暮らすという住まい方が特徴的である。個人の空間は最小限担保した上で、家族のコンスペース（土間・広間）を広く計画した。江戸末期と思われる古い材料や初期の間取り、柱・梁を最大限に活かしつつ、終の棲家としても対応できる柔軟性のある計画を提案した。

審査委員講評

家族にとって大切な時間を過ごした古民家の面影を残しながら、心地よい空間へとリノベーションさせた住宅。既存の骨格を活かしながら構造補強を施し、現代の暮らしへと更新させている姿から、設計者の技量を感じさせる。内外の土間空間と薪ストーブを中心に付随する畳の小上がり空間は、これから近隣住民と過ごしながら未来へ住み継がれていく豊かさを想像させた。



before after



①土間よりダイニングを見る。藍染作家の手による暖簾が土間とダイニングを緩やかに仕切り、玄関の存在を曖昧にすることで、土間テラスと薪ストーブのある場所が近所の人とのコミュニケーションの場となる。



②③土間に使われている栗や樺の柱、大きく曲がった梁、黒く煤けた土壁は建築当初から生活の中にあっただ。構造補強のために追加した梁も、工務店が同時期に解体した民家の現場から出た古材を再使用。新規材料はすべて自然素材を使用し、時を経てこの空間に溶け込んでいくことを目指した。

④土間の薪ストーブをコンスペースの中心に据えてダイニングや畳コーナーが、家族はもちろん、近隣住民とのコミュニケーションに寄り添う場となる。

⑤広間の南側にあった縁側は、外部化して土間テラスへ。土間テラスと内部の土間、さらに勝手口へと続き、玄関土間を介して土足のまま移動できるよう、連続する土間の平面計画を採用した。